

脱炭素燃料政策小委員会

バイオ燃料導入に関する期待

2024年11月11日
一般社団法人日本自動車工業会
海田 啓司

自工会のスタンス

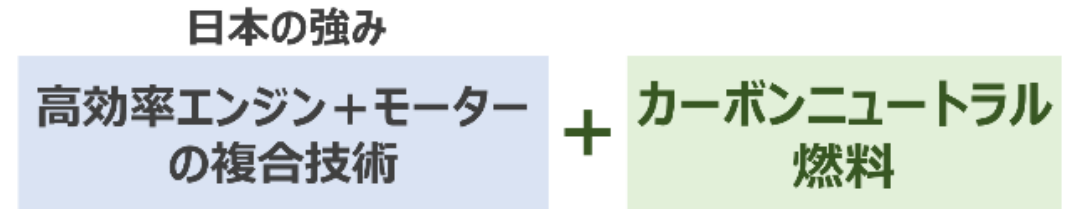
自工会は2050年カーボンニュートラルに全力でチャレンジする

- ◆ 目的はCNであり、**手段は多様な選択肢を維持**
(技術中立)

・BEV、FCEV、HEV、PHEV

- ◆ CN燃料は、即効性、ユーザの利便性、既存のインフラ活用等の観点でメリットあり

- ◆ 一方、コスト、供給量等の課題が存在するためお客様ニーズに合うための施策、実用化のための革新的技術開発が必要



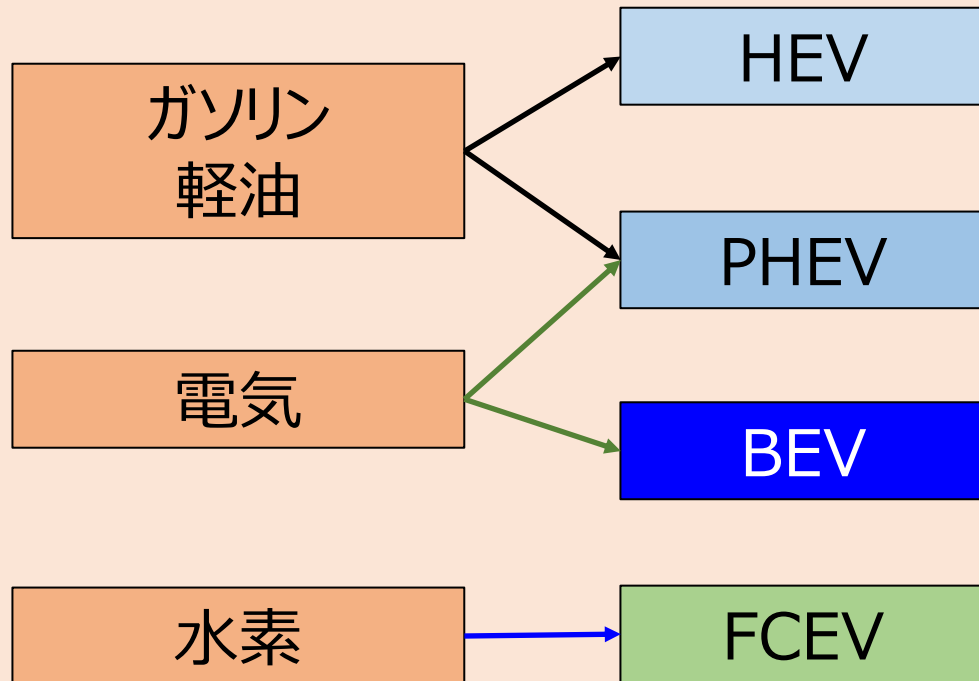
内燃機関搭載車のCN化
(BEV、FCV以外の可能性)

CN燃料：カーボンニュートラル燃料（合成燃料＋バイオ燃料）

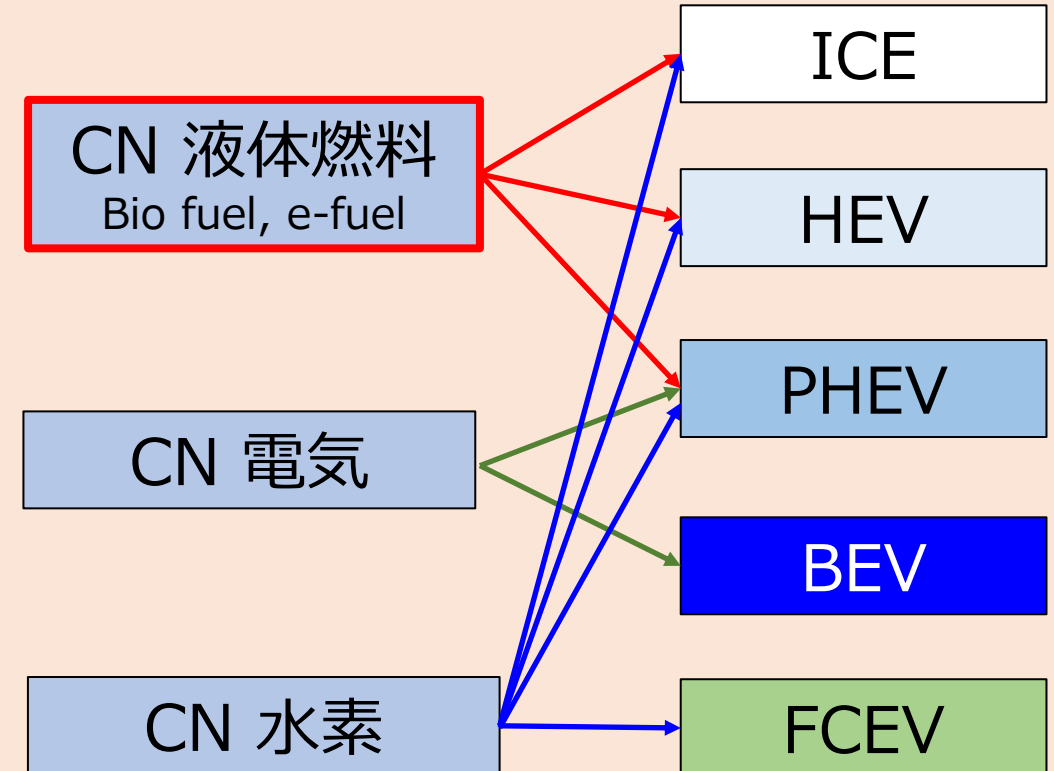
CN燃料は、2050年カーボンニュートラルに向けた重要な手段の1つである

CN燃料の必要性

Carbon Reducing



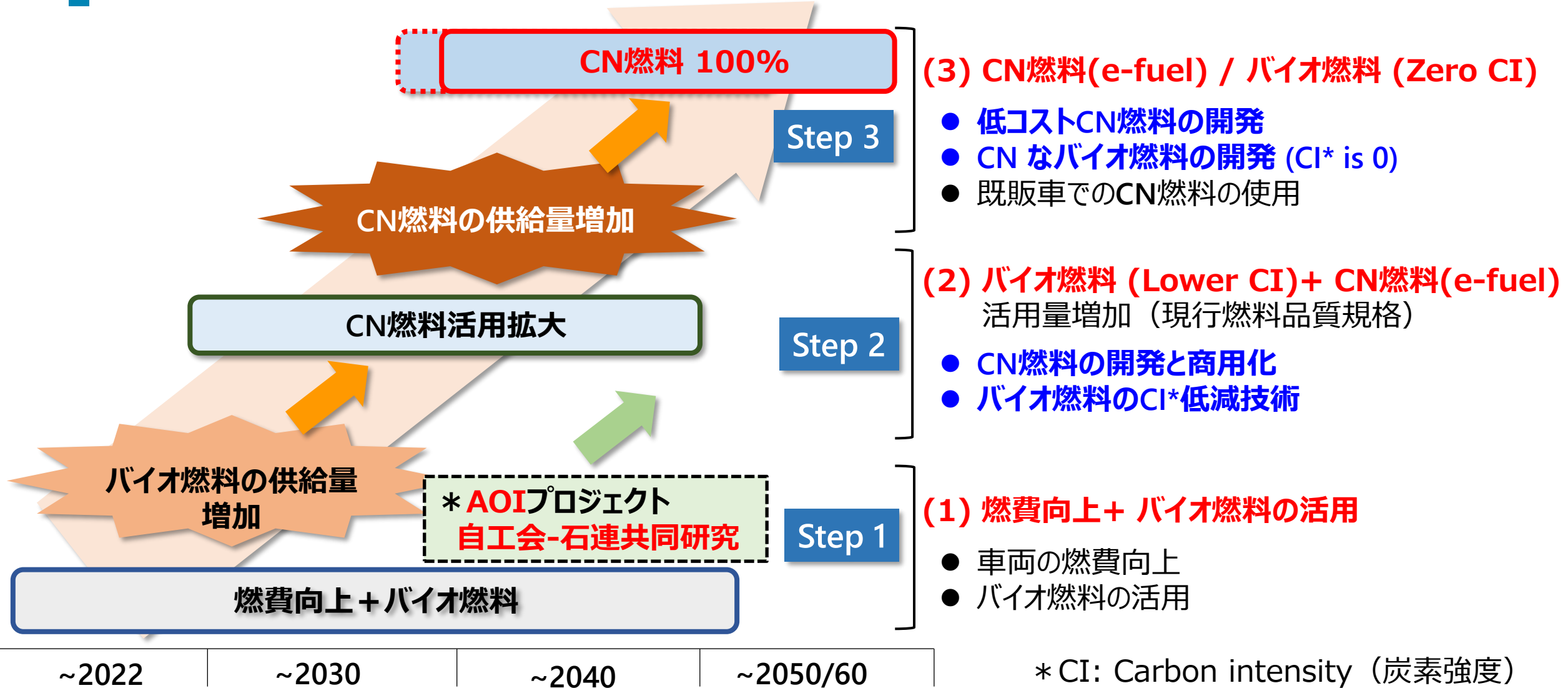
Carbon Neutral



ICE: Internal Combustion Engine 内燃機関車

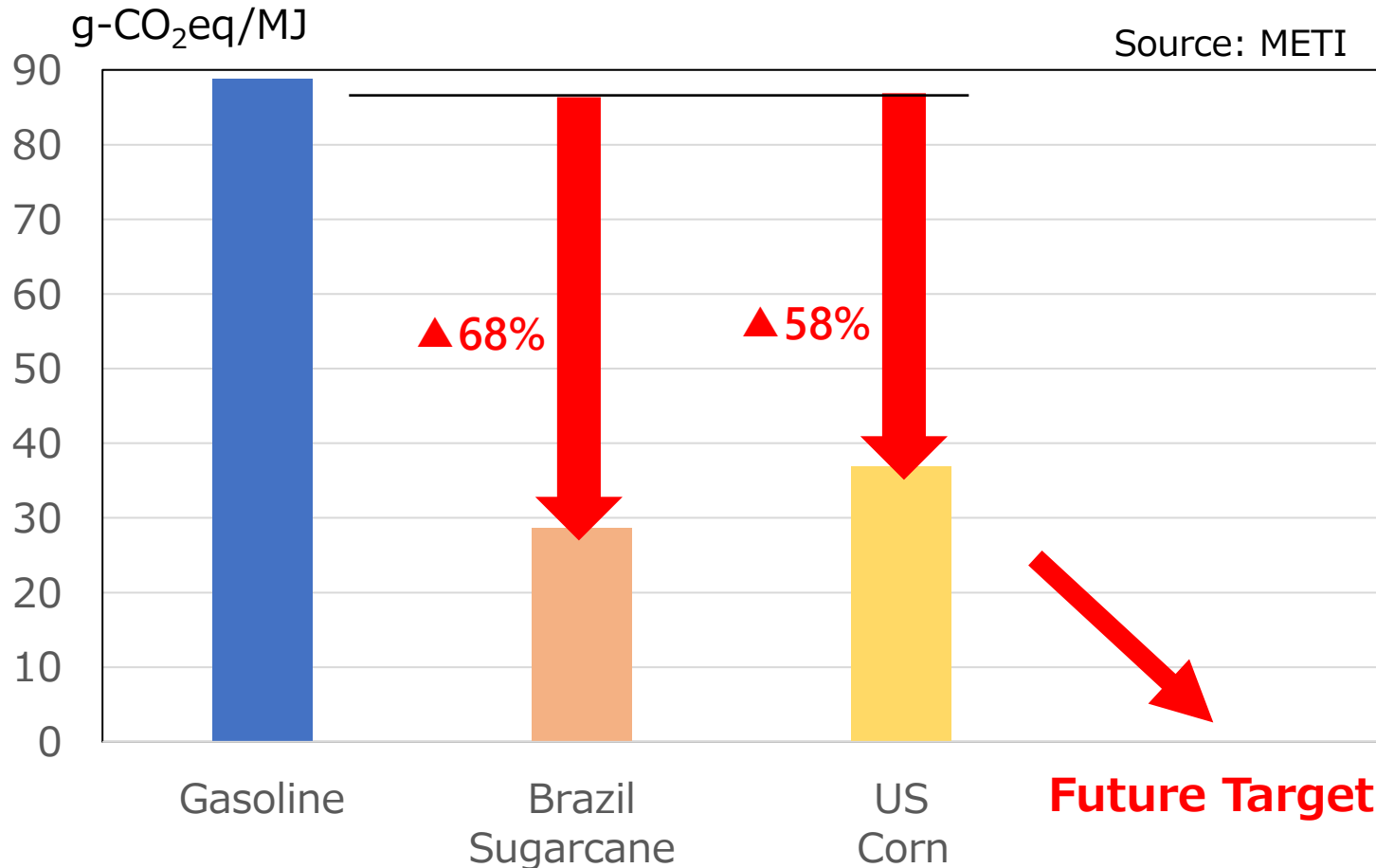
◆ 自動車の対応に加え、エネルギーの炭素強度（CI）が重要
→CN燃料を使用すれば、CN化を加速できる

CN燃料によるCN達成のためのステップ



CN燃料の早急な商業化、導入期・過渡期でのバイオ燃料の活用が重要

バイオ燃料による CO₂ 低減効果例



- 燃料製造のCO₂ 排出量は、その原料や製造方法等により異なる
- 近年、製造方法の改良などで、そのCO₂ 排出量が減少してきている

×

車両の効率（燃費）も向上
HEV/PHEV etc.

WTWで大きなCO₂ 削減になっている

更なる低減（CI低減）を目指す

- ◆ 目標は「**実質的なCO₂の削減**」：適切な使用で、既販車を含めて**CO₂削減が可能**
- ◆ バイオ燃料の**炭素強度を更に下げる**こと、**および十分な供給量が重要**

JAMAのエタノールに対するスタンス（国内）

1. 基本的な考え方

燃料のCI低減が必要

バイオエタノールは、CO₂削減の寄与が期待される燃料のため
ガソリンへの20%までの混合（E20）に賛成

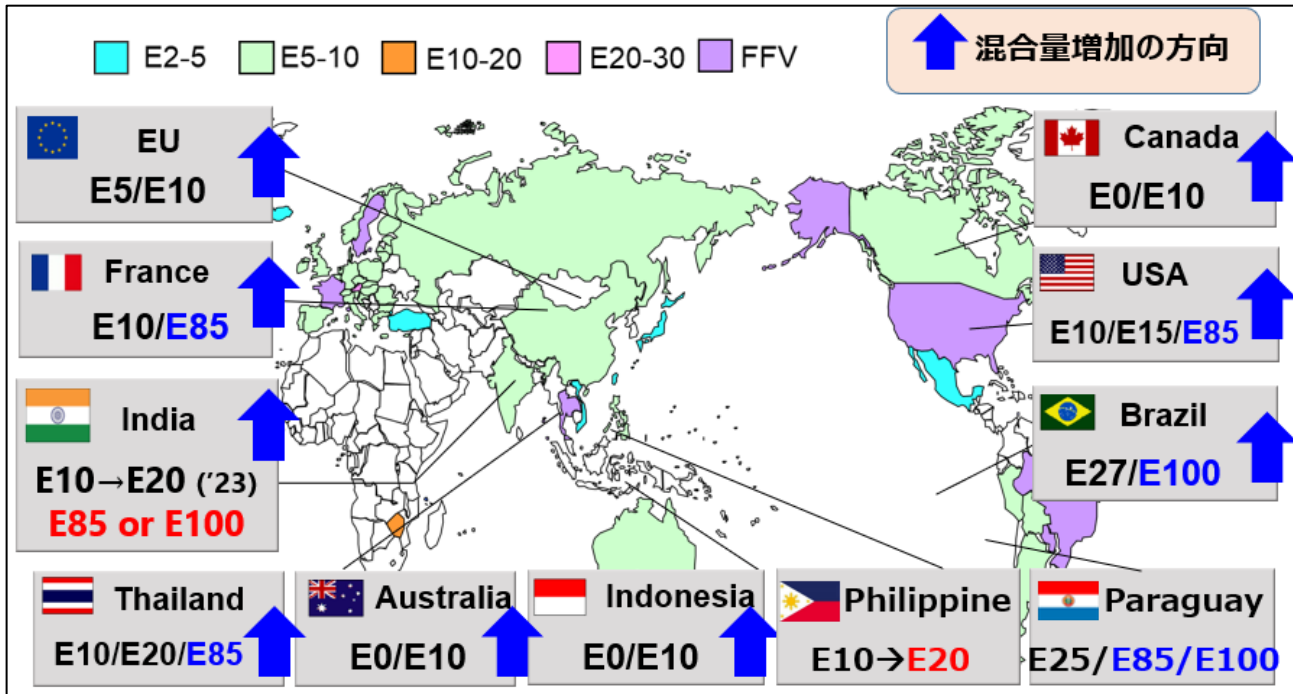
- ・エタノールとガソリンは異なる性状のため、車両や排気、燃費などへの影響確認が必要
→ 新車での対応リードタイムや過渡期の未対応車への適切な対応が必要
- ・政府や関連業界の一体推進、協力が必要

- ◆ E20ステートメントを作成。E20（燃料・車両）への議論のスタートを希望
- ◆ 自工会-石連でのバイオ燃料の共同研究*，自工会でCN燃料の車両評価も検討中

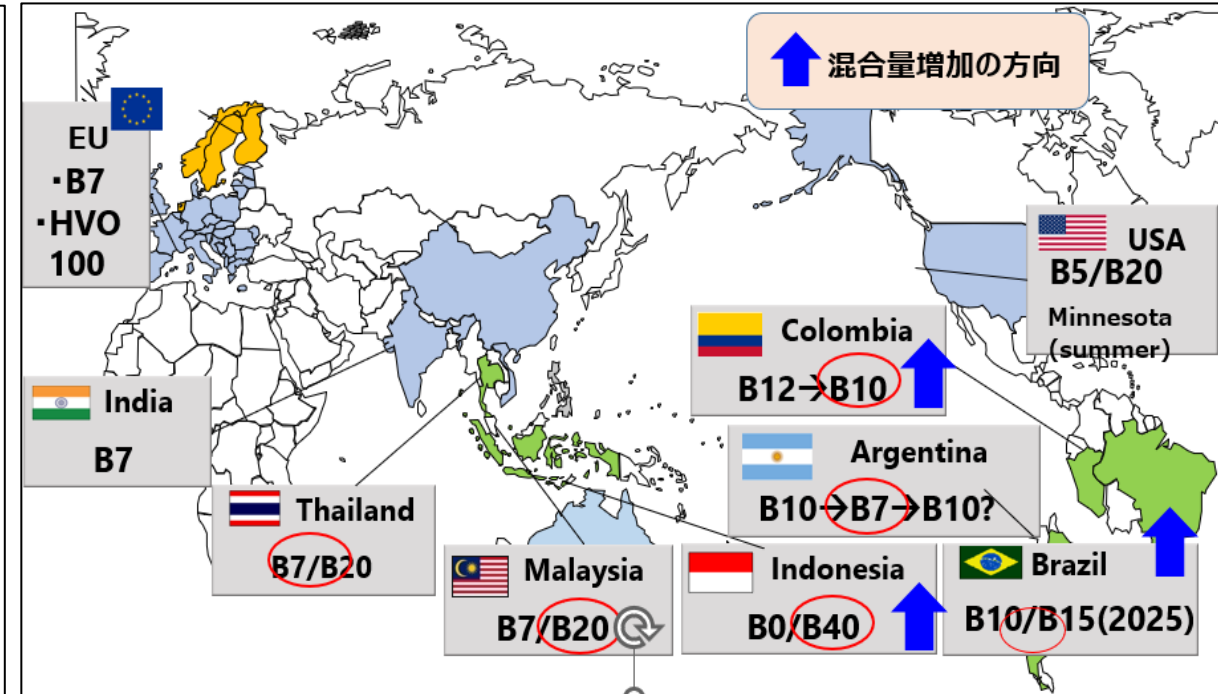
* 共同研究：Automobile and Oil Innovation Project (AOI)

バイオ燃料の世界での導入状況

バイオエタノール



バイオ軽油 (FAME、HVO)



- ◆ バイオ燃料は世界の多くの国で使用され、今後更に積極的な活用が予測されている
 - ◆ マルチパスウェイ推進の方針の元、日本での**バイオ燃料（バイオエタノール・バイオ軽油とも）**の活用拡大を共に推進したい
- * G7等の他国レベル＋燃料に合った車両導入

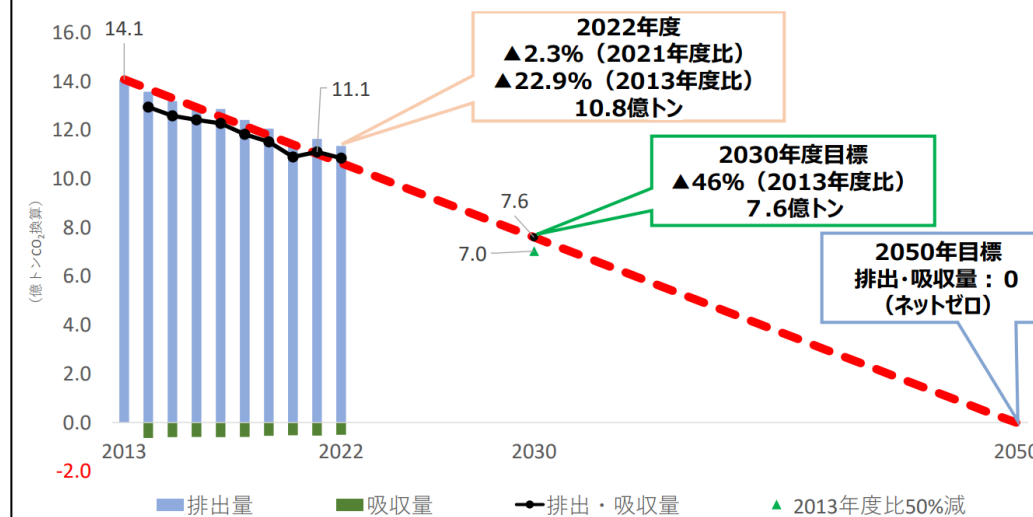
自工会の説明内容（@第46回省エネ小委員会）

目標は2050年CN実現

「2040年CN液体燃料比率は50%以上となるべき」

2030年度目標及び2050年ネットゼロに対する進捗

- 2022年度の我が国の温室効果ガス排出・吸収量は約10億8,500万トン（CO₂換算）となり、2021年度比2.3%減少（▲約2,510万トン）、2013年度比22.9%減少（▲約3億2,210万トン）。
- 過去最低値を記録し、オントラック（2050年ネットゼロに向けた順調な減少傾向）を継続。



- ◆ 目標はCO₂の削減、つまりエネルギーの炭素強度（CI）を下げることである
- ◆ 「2050年CN実現のため、2040年燃料CIの50%以上削減」を目指して欲しい
- ◆ E10・E20活用に向けて、E3導入などすみやかに議論を進めたい

課題認識と要望

1. 普及のための課題認識

①選んで頂くための、対応、工夫が必要

* アフオーダブルなコスト、使いやすい、環境コンセンサスなどの対応

②既販車（保有車）と既存インフラ（燃料元売り及び販売店）への影響

* 事前の供給側との燃料性状検討、未対応車用のプロテクショングレードの確保

③全国SSが減少する中、災害対応の観点も含めた、SS及びSSネットワークの維持・活用

* 政府の強力なご支援によりSS経営の方々が明るい将来を持てるようになることを希望

2. 燃料と自動車の業界での課題解決への協力,カーボンニュートラル社会の取り組みを希望

* CIの早期低減が重要

E3相当までの低濃度エタノール混合については、現行車両への適用は問題がないことが確認できており

E10/E20に向けたきっかけとしてE3の迅速な実行と、E10/E20活用の議論を共にすすめたい



ご清聴ありがとうございました

自工会HP「#クルマを走らせる550万人」より